

お手持ちのパソコンで議会中継をご覧ください。録画でもご覧いただけます。

# 追跡

## — あの質問のゆくえ —

### 限界集落予備軍への対応は

人口が減り高齢化がすすむ集落では、消防体制などの集落機能の維持も困難な状況です。町は特別な対応をとる必要があるのではないですか。

平成19年3月定例議会

町長答弁

### 今後のまちづくりの大きな課題

本町では高齢化率が50%を越す限界集落はありませんが、予備軍といえるところはあります。各々の集落に応じ地域のなかや周辺の方々の話し合いのなかで知恵を出し合い、方向性を明確にしていくことは大事なことです。今後のまちづくりの大きな課題の一つととらえ、新たな枠組みを考えていく必要があります。

どうなった



かつての運動会（大瀬地区）

### 集落支援員を配置

平成22年7月より、集落対策モデル事業として、集落の地域活性化をはかるため、高齢化率が60%に近い「大瀬区」に、集落支援員1名を配置しました。

集落支援員は、大瀬区の安全・安心のための世帯巡回を始め、地域での集会の開催、「敬老会」の復活や、60歳以上を対象とした「いきいきサロン」を始動しています。これらにより、地域の連帯が一層強まることを期待しています。

今後も集落支援員の配置を継続しながら、自立したコミュニティとしてのあり方を検討していきます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局(表紙参照)までお寄せください。



真剣な議会傍聴

## 町民の声

蚕桑地区公民館の婦人学級「おつみ学級生」15名で議会を傍聴しました。傍聴席に入ると他の団体もあり、人の多さに驚きました。その日は80人と聞いて町民の関心の高さがうかがえました。

蚕桑、鮎貝地区に焦点をおいた議員の質問は、私たちの生活に密着しており、大変興味深く聴くことができました。少子高齢問題など白鷹町に山積する課題について、町民と行政の橋渡しとなる開かれた議会の開催を期待します。

(60歳代 女性)

## 編集後記

収穫の秋を迎えました。心配された放射線量も当町では問題がなく、収穫された農産物が安全で「ホッ」としております。

今回、審議された決算は歳入面での課題はあるものの良好な内容と思われれます。今後は、今年度からスタートした「第5次白鷹町総合計画」への取り組みになります。

先般、全議員で長野県に研修に行ってきました。そこは山奥で水稲の作付けもままならない地に、協同の力でレタスやセロリの産地を築き、人口増加に結びつけている村でした。農業への執着が、逆転的な発想となり、実を結んだものと思われれます。

議会報も、「笑顔かがやき・心かよう・美しいまち」づくりの一端を担えるようにがんばります。

(山田)

発行責任者・議長  
青木 彰 榮  
**広報委員**  
委員長 千鶴子  
副委員長・編集長 山田 仁  
委員 樋口与一朗  
委員 田中 孝  
委員 新野いく子  
印刷・長谷川印刷